



きらめけ! 有年っ子

赤穂市立有年小学校
赤穂市西有年2853番地
TEL 0791-49-2081
発行者 西村 博子

平田オリザ先生来校 ～演劇ワーク～ショップ～

11月25日（月）、劇作家・演出家であられる平田オリザ先生を講師としてお招きし、4・5・6年生が「演劇ワークショップ」を行いました。平田先生は日本全国を講師として駆け回っておられる、大変お忙しい方ですが、今回、有年小学校の児童にご指導くださるという貴重な機会をもつことができました。

この「演劇ワークショップ」をとおして、「豊かな表現力・コミュニケーション力の育成」「よりよい人間関係の構築」「自他理解の促進」「自尊感情・自己肯定感の高揚」など、劇を創るという体験から多くのことを学んでほしいと願い計画を進めてきました。

平田先生は、穏やかな口調で話されたり、児童の目線に合わせてアドバイスをくださったりと、初対面の子とも達も緊張することなく、活動に取り組むことができました。また、当日は、市内小中学校からも多くの先生方が参観に来られていましたが、児童ははしゃがくこともなく、生き生きと話し合い、堂々と演じきり、有年っ子パワーを見せてくれました。



活動の様子



4年生以上の有年っ子きょうだい班で、グループを作り、演劇ワークショップに臨みました。

平田先生からいただいた台本をもとに、それぞれの役を決め、台詞を考え、動きを工夫し、発表の練習を行いました。

6年生をリーダーとして、一人一人が意見を出し合い、活発に話し合いながら意欲的に取り組みました。

これも少人数のよさ！縦割り班のよさ！を実感した時間でした。





演劇ワークショップ後の振り返りで、平田先生からは、
 「演劇では、どの子にも居場所がある」「自分を出発点にする」
 「時間の使い方を考えて活動することが大事である」
 「話し合いで物事を決めるとき、どう決めるか優先順位をつけることが必要になる」
 「みんなで決める能力をつけることが、大人になっていくということでもある」
 「話し合って結論を出して伝える力が大事である」
 「折り合いをつける力や合意形成能力を育てていくことが大事である」

といった印象深いご助言をいただきました。

今回は有年小学校の少人数でも、豊かに関わり合い、意見を練り合える児童の姿をたくさん見ることができました。この学びを今後の教育活動に活かしていきたいと思います。

【演劇ワークショップの感想】

<児童>

- 正解がなくて自由にできて、新しいことがどんどんわかって、楽しかった。
- はじめは、どんなことをするのか不安だったけど、やってみると楽しくなって、劇が完成してうれしかった。
- 演劇は、台詞のつながりを気をつけなければならないと学びました。
- 自分たちが中心になってがんばった。(6年生)
- むずかしくはなかったけれど、役になりきれるようにがんばった。
- 自分の意見を言うことができた。
- みんなで話し合って劇をつくるのは、とても楽しかった。もっとやってみたい。
- どのグループも工夫があって、おもしろかったし、いいなと思った。
- 流れを考えると、すべらないように、すべてをつながるのが楽しかった。

<教員>

- たくさんの参観者がいたけれど、物怖じせず、楽しく元気に活動できていた。
- 意見を決めるとき、協力する姿が見られた。
- 人前でも、役になりきって堂々としていた。有年の子はすごい！
- 普段は見せない児童の姿が見られた。いつもの自分と違う自分を演じることで、その子の新たな一面を見ることができた。
- 6年生が話し合いをリードし、よくまとめていた。少人数と縦割りのよさが出ていた。
- 最初の劇と話し合って練習した後の劇とで、劇の内容はもちろん、児童の変容がすごかった。
- 普段の学年の枠を超えた温かい関わりが見える活動だった。
- 平田先生のお話がよくわかった。指導者の「待つ」「任せる」姿勢が大切だと改めて実感した。
- どの子も生き生きと演じて活躍していた。

